

課内保管用

※配付厳禁※

平成19年度

沖縄県海外留学生修了報告書



沖 縄 県

財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団



平成 19 年度沖縄県海外留学生修了式 平成 20 年 3 月 5 日 於：サザンアラザ海邦

目 次

○海外移住者子弟留学生(7名)

- | | | |
|---------------------------|-------------------|-----|
| ・ 沖縄での留学生活、たくさんの思い出を忘れません | バジエホス 小波津 エザベス カナ | P 1 |
| ・ また会おうね！大好きみんな | 知花 山城 ルミ | P 7 |
| ・ 修了報告～沖縄留学～ | 城間 明秀 セルソ | P11 |
| ・ 沖縄の一期一会 | 金城 コリン 完治 | P18 |
| ・ 一年間の美ら島物語 | 落合 クレグ 北斗 | P22 |
| ・ 想い | 玉城 美奈 | P27 |
| ・ 染織から見つけた沖縄 | 浦崎 リア クリスティーナ | P30 |

○アジア諸国等海外留学生(3名)


- | | | |
|--------------------------|------|-----|
| ・ 沖縄で見えた台湾 | 呉 俐君 | P33 |
| ・ 人生の大切な一部分となった、沖縄での留学生活 | 廖 靖文 | P36 |
| ・ 一期一会の経験 | 曹 智鵬 | P39 |

平成19年度沖縄県海外留学生名簿



1 海外移住者子弟留学生（琉球大学 4名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	バジエス 小波津 エリザベス カリナ ELIZABETH KARINA VALLEJOS KOHATSU	ペルー PERU	琉球大学 共通教育等 科目等履修生
	知花 山城 ルミ RUMY CHIBANA YAMASHIRO	ボリビア BOLIVIA	琉球大学 共通教育等・法文学部 科目等履修生
	城間 明秀 セルソ CELSO AKIHIDE SHIROMA	ブラジル BRASIL	琉球大学 共通教育等・法文学部 科目等履修生
	金城 コリン 完治 COLIN KANJI KINJO	カナダ CANADA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生

2 海外移住者子弟留学生（名桜大学 1名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	落合 クラッグ 北斗 HOKUTO CRAIG OCHIAI	アメリカ U.S.A	名桜大学 科目等履修生 (日本語、沖縄の自然等)

3 海外移住者子弟留学生（沖縄県立芸術大学 2名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	玉城 美奈 MINA TAMASHIRO	アメリカ U.S.A	沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 琉球舞踊組踊コース
	浦崎 リア クリスティナ LIA CRISTINA URASAKI	アルゼンチン ARGENTINA	沖縄県立芸術大学 工芸専攻 染織コース

4 アジア諸国等海外留学生（琉球大学 3名）

写 真	氏 名	出 身 地	受入大学
	呉 俐君 WU LI CHUN	台 湾 TAIWAN	琉球大学大学院 人文社会科学研究科 人間科学専攻
	廖 靖文 LIAO JING WUN	台 湾 TAIWAN	琉球大学 共通教育等・法文学部 科目等履修生
	曹 智鵬 CAO ZHI PEN	中 国 CHINA	琉球大学 共通教育等 科目等履修生

はじめに

海外留学生受入事業は、本県出身移住者の子弟及び歴史的に繋がり深いアジア諸国等から優秀な人物を選抜し、県内の大学で修学させ、日本・沖縄の文化を理解し県民との交流を深めてもらい、本県と移住先国及びアジア諸国等との友好親善の推進に寄与する人材の育成を目的としています。

昭和44年度(1969年)の事業開始以来、本年度を含め532人の留学生を受け入れてきました。留学を修了し帰国した留学生は、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しており、また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成19年度は、北米、南米及びアジアの7カ国1地域から10名を受入れ、そのうち7名が琉球大学、2名が沖縄県立芸術大学、1名が名桜大学において勉学等に励みました。1年間の沖縄滞在を通して、沖縄の歴史や文化等について深く学ぶとともに、お互いの交流を通して友情を育み、ウチナーネットワークを身近なものにすることができたと思います。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

当事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄県立芸術大学、名桜大学、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成20年3月

沖縄県観光商工部長 仲田秀光

沖縄での留學生活、たくさんの思い出を忘れません。

小波津 カリナ (ペルー)

「分からない」、沖縄に着いたばかりのわたしは、この言葉しか分かりませんでした。

沖縄県の奨学金に三度目の挑戦でやっと合格し、去年の四月に念願の沖縄への留学が実現しました。しかし、一人で生活を始めたら、とても大変でした。料理があまり口に合わず、納豆は臭くて、ネバネバして、腐った豆にしか見えませんでした。また、日本語があまり分からなかったので他の人とコミュニケーションがとれず、寮の洗濯機の使い方も理解できなくて、3週間洗濯物を溜めたこともありました。授業に行っても、先生の言っていることが何も分からず、朝起きたら、もう大学に行きたくない、先生達の顔なんか見たくない、と思うこともたびたびありました。私が想像していた沖縄での暮らしと、なにもかも違っていたので、毎日ペルーに帰ることを考えていました。

そんな暗い気持ちを引きずったまま、一学期が終わりました。沖縄での生活から離れるために、夏休みになったので、静岡や東京にいる親戚のところに行きました。いっぱい楽しんだのに、なぜか心の中は満たされませんでした。心は晴れず、なんとなく居心地の悪さを感じていました。「何か違う。ここは自分がいるところじゃない。」という気がしてきました。

そんなとき、おじいちゃんの三線と、おばあちゃんの沖縄の話しについて思い出しました。また、沖縄に行きたいという気持ちが小さいころからあったことも思い出しました。沖縄に対する、私の気持ちはいつもなんとなく、愛情だったので、そのとき、「やっぱり、沖縄が私のいるべきところだ。わたしは、ウチナーンチュなんだ。」と気づきました。

「沖縄に来ることが、ずっと私の夢だったんだ。今、そのあこがれの沖縄に留学できたんだから、残りの時間を大切にしないと。」と心に決め、沖縄に戻りました。

自分自身の沖縄に対する思いに気づいてからは、沖縄の生活に慣れるように努力しました。

今までは、琉球大学で日本語をしっかりと学びました。でも、それだけではなく、日本事情の授業で、書道や、生け花や、浮世絵などをすることができました。



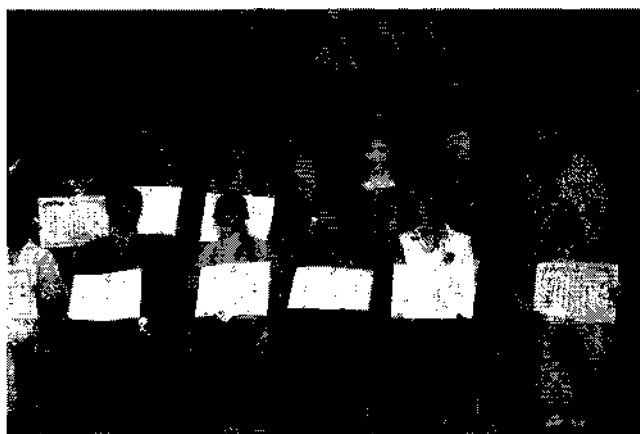
さらに、大学の活動の中で、留学生祭りに参加しました。この祭りに、南米の人達と集まり、南米の紹介をさせていただきました。南米の踊りもやりました。また、三線のサークルも通いました。



琉球大学のスペイン語協会の色々な活動にも、ボランティアとして参加しました。ここでは、スペイン語を学ぶ大学生と交流することができました。



二月になり、琉球大学のスピーチ大会に参加しました。そのとき、特別賞をいただきました。また、沖縄県の弁論大会に選ばれました。その日、着物を着ることができました。そのときは、とても神経質になり、そして着物のために動けなかったけど、とてもいい経験だったと思います。



沖縄に来て、ほんとうによかったと思っています。沖縄に来てみて、初めて親戚と会うことができました。色々な所へ行き、とても嬉しかったです。



沖縄文化にも積極的に触れるようになりました。そうすると、ウチナーンチュの優しさや、沖縄文化のよさが、わかるようになり、多くの友達もできました。特に、私のルーツと出会うことができ、沖縄に対する私の気持ちを確認しました。



また、わたし自身、ペルーで生まれながら、自分の中に沖縄に対する特別な思いがあることに気づくことができたからです。今では、ペルーに帰りたくありません。

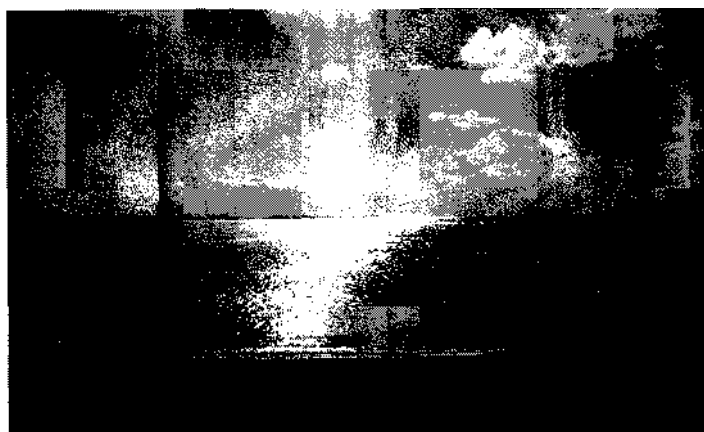
今、誰かに、「どうして、沖縄に特別な気持ちを持っているの？」と聞かれても、上手く説明することはできないと思います。ただ、ペルー人でありながら、私の中に、いつもウチナーンチュ魂があるのです。



最後に、沖縄の人々のイメージ、ウチナーンチュから学んだ事、多くの親しい友人の気持ちを心の中に、いつかまた再会出来るように希望を持ち、国に帰ります。ペルーに帰ったら、沖縄県人会の若い人達に沖縄で学んだことを伝えたいと思います。



一年間の留学生活に満足しています。沖縄、沖縄県庁の皆様、財団の皆様、そして先生達、ペルー沖縄県人会に感謝したいと思います。



沖縄での思い出は一生忘れません。

「また会おうね！ 大好きなみんな」

知花 山城 ルミ(ポリビア)

ドラマ「ちゅらさん」を見て、私はずっと沖縄に行ってみたいな～という小さな夢を持っていました。そしてその夢がついに叶うかもしれない！ そう思ったのは「沖縄県海外移住者子弟留学生」に応募をしたときでした。

五月、ついに沖縄行きが決定しました。

その時は、とてもうれしくて、おおはしゃぎでしたが、実際に沖縄に来てみて一人での生活に不安を抱くようになっていました。

それに私が想像していた沖縄とはまったく違う沖縄でした。

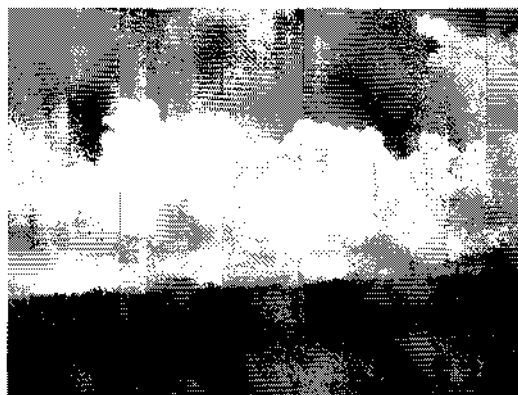
「海とウージーに囲まれてのんびりした場所」というのが私が自分勝手に想像していた沖縄でした。



海



シーサー



ウージー

琉球大学

琉球大学では日本語の勉強だけではなく、首里城やガマ、それに国際通りの市場などいろいろな場所を見学することができました。

また、授業の中で習字、ゆかたの着付け、篆刻、書初め、生け花、俳句などいろんなことを体験することができ、とてもいい経験、そしてたくさんの思い出をつくることが出来ました。

それから、先生方にはスピーチ大会や弁論大会のときにいろいろ指導してもらい良い結果を残すことができました。本当にありがとうございました。

私は留学生さんしんサークルにも参加していました。さんしんを手にするのは中学生以来だったのでドキドキしながら弾いてみるとなんだか自然に手が動くのでビックリしたと同時にちょっとうれしくなりました。



書初め



生け花



留学生さんしんサークル

スピーチ・弁論大会

NPO 法人ワールドクイーン沖縄主催 留学生日本語弁論大会、琉球大学日本語スピーチ大会、沖縄県留学生弁論大会、などといった大会に出場することができました。留学生日本語弁論大会と琉球大学日本語スピーチ大会では特別賞を受賞することができました。

そして、その場をかりて沖縄とボリビアのつながりやボリビアにいるウチナンチュたちのことを紹介することができてとてもよかったです。

ありがとうございました。



琉大スピーチ大会



留学生日本語弁論大会

ニヘーデーピタン

この一年間の留学生活は私にとっては何もかも初めてのことでした。

ボリビアから出ることも初めて。

沖縄に多くの親戚がいることを知るのも初めて。

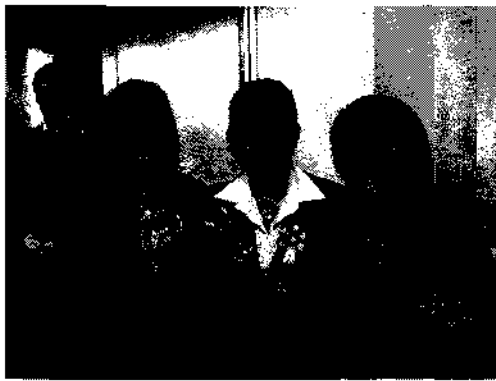
海を見るのも初めて。

何もかもが初めて。

私たちを受け入れてくれた沖縄県、財団の皆さん、県庁の皆さん、琉球大学、親戚の皆さん、友達、本当にありがとうございました。

皆さんのおかげで私は一回り大きくなることができましたと思います。

f



修了報告
～沖縄留学～

城間 明秀 セルソ(ブラジル)

はじめに

ブラジル沖縄県人会の方々を始め、沖縄県、沖縄県国際交流・人材育成財団や琉球大学が留学の機会を与えてくれたことに感謝の意を表したいとおもいます。

沖縄県が海外移住子弟を始め、昔から何らかの関係のあった国々から学生を受け入れる事業は沖縄県と海外の国々との関係を深めるだけでなく、沖縄で集結した人たちの国々との交流、もちろんそれは国同士の範囲に限らず、人と人との繋がりを基礎とした「沖縄」を中心としたネットワーク作りに重要であり、沖縄の文化や諸事情を自国で伝えると共に、沖縄で自国の文化の紹介等と、民間レベルでの相互理解にも役立っているでしょう。

今後も、姿形はどうあれ、この事業を続けられるよう願っています。

留学の動機

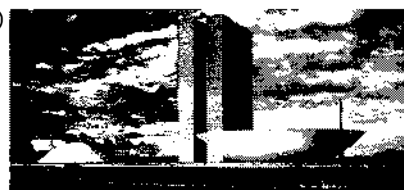
私はブラジルでは国際関係学を専攻していましたが、大学でアジアを対象にした科目や専門の先生が数少なく、常に米国と欧州に注目するのがブラジル一般的な考え方故、アジアの専門として活躍したいことを目的として、アジアで特別な立場にある地域の沖縄へ留学する事を決心しました。また、祖先の故郷の事をもっと知りたい、将来の職業とは別に個人的にもアジアに興味があったためでしょう。



1.南城市唯一の開鐘（大城区）

2.一門の墓

3.ブラジルの首都



琉球大学で

琉球大学では金城直美先生を指導教官にもち、前学期は日本語の修学を中心に日本や沖縄の文化も学びました。

クラスメートは皆留学生で、色んな国々からの学生が集まっていました。

授業時間は通っていた大学とは違い、毎日が決まった時間に



中央に指導教官の金城尚美先生

講義があるのではなく、月曜日と木曜日は一日授業を受け、他は半日でも、全てが午前中か午後では無く、バラバラで、なれるのに時間がかかりました。

授業は校内に限らず、沖縄の色んなところを見学へ連れて行ってもらったりしました。

しかし、留学の動機は日本語の修学が最終目的ではなく、日本の政治やアジアについて勉強する事であったので、後学期は指導教官の許可を得て日本語以外の講義を受けさせてもらうことができました。

*授業

前学期は日本語と日本や沖縄の文化の講義を受け、日本語能力の向上を図ることができたと思います。元々日本語をパソコンでしか書かないようになっていたせいか、漢字を書くのが苦手で、



琉球大学で演劇の後

書くことがほとんど出来なくなっていました、日本語の授業で鍛えなおしてもらうことが出来ました。

金城尚美先生の授業ではニュースの聞き取りを通して日本語を勉強しながら、日本や沖縄の事を学び、ケリー綾子先生や赤嶺先生の授業では文法や表現などを学び、石原先生の授業では色々な文章を通して、文章の読解力を向上すると共に、日本の文化や国際理解を促す内容の文章で色々学んだ気がします。ケリー綾子先生からは日本語以外に日本の文化を紹介する講義を受け、栗国先生には沖縄の文化や歴史を学びました。

後学期は金城尚美先生のニュースの講義以外に政治に関連した講義も受けました。受けた講義は以下の通りです。

最初の三つの講義は香港出身の林泉忠(リム・チュアンティオン)先生から受けました。面白いことにこの先生も元留学生です。今はアイデンティティの調査をされていて沖縄人のアイデンティティ調査も昨年実施されました。



外国人墓地

「東アジア地域研究Ⅱ」では主に中国を中心に講義は進められ、私は一週間おきにニュースを紹介する係りを務めました。日本人ほど東洋の事に詳しくない自分としてはその役目を自分から勤めさせてもらうことによって、よりアジア状況に目を向けることが出来たと思います。

「沖縄をめぐる国際関係」では主に沖縄の歴史を学びました。先史時代から日本復帰後の沖縄までで、ゲストの先生の話をお聞かせいただく機会もありました。政治的、または経済的な内容で分かりにくかったりする事もありましたが、自分なりに多くを学びとるこ

とが出来たとおもっています。

「現代アジア論」では現代のアジア情勢を政治的・文化的視点から見つめながら学ぶことが出来ました。

「沖縄の社会と政治」では秋山先生の許でやはり沖縄の歴史を中心に沖縄社会の変動について学ぶことが出来ました。

「西洋思想と日本・中国の思想」では安次嶺先生にギリシャを始め、主に西洋の非合理的側面を学び、中国の儒教などについても少し学びました。

「現代の国際関係」を我部政明先生の許で近現代のテーマ等についてビデオと講義を通して学びました。そんなテーマに限ってクラスのメンバーと討論出来なかったのが心残りです。

「日本の政治」は坂本先生に日本の選挙システムから国会の仕組みや派閥などについて学びました。日本での政治は大統領制の国に比べに容易とと思っていましたが、必ずともそうでは無いことが分かりました。

以上の講義を日本人の学生等と受けさせていただきました。

「琉球文化特別研究（沖縄方言）」では留学生と共に仲間先生に沖縄方言－首里・那覇方言－を実用しながら学びました。

*寮での生活

親の許を離れ、一人暮らしを体験するのは初めてで、沖縄に来た当初は不安いっぱいでした。料理などもまともにやったことの無かった私はどんな料理を作っているかわからず、とりあえず何でも炊いたり、油で揚げたりしていましたが、後学期になってからは親の料理が恋しくなってきたか、内地に出稼ぎに来ている親戚の叔母さんや弟に夏休みの時にブラジルの豆料理の作り方を教わり、沖縄でも作ったりしました。もちろん後から自分で違う料理にもチャレンジしました。

寮での生活は初めてで、男子寮がどれほど散らかっていて汚いものか想像もしていませんでした。留学経験のある先輩に琉球大学の寮の話が聞かされていましたが、どれほど凄まじいものなのかは実際に来てみて体験できました。各フロアに12名が住み、トイレ、炊事場、洗濯機を共用し、風呂場（シャワー室）は違う建物で、そこにはおよそ30箇所のシャワーを480名で共用するというのに絶望を感じました。

調理をするときは炊事場が狭いため順番待ちで、道具も皆が自分の分をちゃんと片付けるわけでもなく、流しに何週間も道具をためながら置きっ放しにするといったケースがあり、よく凄まじい異臭に苛まれました。しかも、道具は共用するものが多いため、自分の食器を乾燥させるのに置いていても、勝手に使われ、ちゃんと洗ってもらえなかったりする事が度々あり、男だけの暮らしがどんなものなのか実感できた気がします。

洗濯の際はよくなっている事があり、機械が古く、性能が悪いため、時間がかかり、

乾燥機と洗濯機に時間差があるため、乾燥し忘れる洗濯物が多発し、何度も洗濯のやり直しをしたりしました。

居間でカップラーメンの器や茶碗が食べ残しとともに放置されていたりして、座るところを探さなければならず、大変でした。

掃除などは当番なども、皆の協力が得られないためか決まっておらず、ユニット長がたまに何か片付けている姿が見られました。たまに手伝ったりはしましたが、皆に説教したい気持ちの方が大きかったです。

人間関係においてはよく話相手になってくれるいい人がいましたが、都合の悪いことがたったひとつありました。それは、宗教の勧誘です。寮のユニットのある人に食事に誘われたのは仲良くしたいからと私は早合点してしまい、彼の友達二人と共に浦添市まで車で連れて行かれました。「よくしゃべる人だな」と思っていたら、突然お祈りの仕方を教えてくれる等と言い出すのです。とりあえず宗教に関して話をするのは嫌いですと伝えたので強力な勧誘は止みましたが、帰り道もまた宗教の利点についてしゃべりだして啞然としました。同じユニットの人だから関係を悪くしたくないから一緒に帰ったのが間違いだったのでしょう。その後2度も誘われました。本当にある種の人間には「ノー」を暴力的に表現する必要がある事を実感しました。寮の人の話では、その人は相手にしないほうがいいと言うことでした。

日本人の中で日本人との交流を深めるのにはいいはずの場所ですが、色んな意味で国際交流会館の人を羨ましく感じました。もちろん、色々間違っていると思うことをみて勉強になりました。

交流

*琉球大学

琉球大学ではクラスの留学生と接することが出来て、色んな国々の人たちを知ることが出来ました。留学生三線サークルは、留学生と交流を深めるだけでなく、日本人とも友達になれました。

チャリサークルや躰道にも通いだしましたが、時間が合わなかったために途中で行けなくなってしまったことが残念です。三線サークルも後学期からはほとんど顔を出せず、イベントがあつて参加できる時には参加させてもらっていました。

チャリサークルのメンバーとは琉球大学から瀬長島まで自転車をこいでいき、三線サークルのメンバーとは琉球大学の留学生祭りや県の留学生親善パーティ、琉球大学スピーチコンテストで演奏しました。神戸から留学生が来た時はエイサーの久高と一緒に教えたり



留学生三線サークル

もしました。

日本語の授業を通して日本人との合同授業が一回あり、演劇で日本の文化を学びながら他の留学生とも交流を深めることが出来ました。琉球大学のスピーチ大会や県の弁論大会で自分の考えを皆に伝えるだけでなく、色んな国の人の考えを聞くことが出来、よかったです。

古宇利島のあるおじさんと留学生の一人が仲良くなった事がきっかけで、皆がそこを通うようになり、私もそこのおじさんと話をする機会がありました。ブラジルに親戚が移民したらしく、自分も移民を希望していたそうです。そこで国の料理を作ったり、手伝いをしたりしました。

留学生センターを通して、ボランティア通訳をする機会がありました。個人の通訳で、ブラジルから来た親戚との会話のために手伝いをさせていただきました。そこで、沖縄をついでに観光しながらウチナーンチュの遠い親戚でも快く迎え入れる心の広さを実感し、沖縄のある一部の歴史をも勉強できました。その一族は首里を落ちた士族でゴサマルの末裔だったのです。

*県費留学生

県費留学生同士の交流の場が少なかったと思います。自分たちで企画するのにも、各自の時間や距離の問題があり、なかなか容易には出来ませんでした。やはり定例会以外最後の修了式のためのリハーサルで叶った事ですが、修了式で皆が楽しそうにやっていたのを見て、最後の最後に頑張ってよかったと今では思っています。

ぶくぶく茶体験や那覇西高校との交流もとてもよかったと思いますので、県庁や財団の方からもっと地域との交流の場を設けていただきたいと思います。それだけでなく、慰霊祭などのような行事などに留学生を参加させるべきだと思います。自由すぎてどこから動いたらいいかわからない事がよくあると思います。

*地域

2001年に旧大里村の村費研修生としてお世話になった関係で、南城市役所の方々と仲良くさせていただく事が出来ました。特に永村さんのお世話になり、市の色々な行事に案内してもらおう以外にも、市の海外移住子弟研修



南城市・JICAの研修生等との交流会

生とも仲良くさせていただく事が出来ました。

単に大里村に所縁があると言うだけでイベントがあるときには案内してもらい、研修生が北部に観光へ行ったときには同行もさせていただく事が出来ました。北部ではまた名桜大学の何名かの学生と少し話す事ができ、留学生とも仲良くできました。そこで同胞2名と

も会いました。観光ではアルゼンチンやボリビア出身の今帰仁や名護、大宜味村の研修生とも知り合いました。

浦添市の「ありんくりんブラジル講座」へ何度か足を運び、そちらでブラジルへ留学経験のある講師の中村さんと知り合う事ができました。それは浦添市の研修生との交流にもつながりました。講座ではブラジルの事が色々紹介されていて、内心ホッとしていました。最初、どんな話がされるのだろうか不安でしたが、講師のブラジルに関する知識を確認できて安心したのです。講座には多くの方が訪れ、ブラジル人としては多くの日本人がブラジルに興味を持って来てくれてうれしく思います。



サンピセンテ市長と那覇市長のボランティア通訳を務めた際

2005年度の県費留学生との繋がりで芸大の人たちとも遊ぶ機会がありました。そこで何度か先輩の通っていた民謡ライブハウスへ足を運ぶことがあり、お店のおばさんとも仲良くなり、三線の飛び入り参加もさせてもらったりもしました。

琉球大学の石原先生に誘われ、ボランティアスタッフとしてキューバの100周年チャリティイベントにも参加させてもらいました。

ブラジルから友達がOTVのお正月の番組撮影のために来た時はその撮影を見学することもできました。沖縄のアーティストが生で演奏したり歌ったりするのを見るのにもいい機会でした。

ブラジル協会の与那城さんには色々案内していただきました。市町村の研修生を紹介してもらったり、ブラジルの何かがあるたびに呼んでもらったりもしました。

大晦日は親戚の家に泊まり南城市唯一の開鐘を大城区で鳴らすことが出来ました。父の同級生や一門の方にも会うことが出来、歓迎されました。



父の従兄夫婦

北海道に留学している友達が遊びに来た時は、偶然北海道のある大学の憲法9条の会も来ていたので同行して沖縄のガマを巡ったりし、その会の人たちと憲法9条について話しをすることができました。

*県外

旅中泊った民宿の方々やライダーハウスで同じ旅人等とも接することができました。鹿児島へ行く途中の船では鹿児島出身で愛知県の大学へ遊学している沖縄をバイクで一周した青年とも話す機会がありました。釧路の民宿のおばさんたちにはもう別れを告げていたのに、わざわざ自分に合うためにアイヌの資料館まで来てもらって感動しました。

日本縦断計画

初めての一人旅で初めての船旅や線路の旅で、単に面白そうな駅が知り合いのいる駅で降りて観光をするだけでした。日本の色々な場所へ足を運ぶことが出来たと思います。神社としては出雲大社や靖国神社、神道について考えさせられました。広島の実爆ドームでは戦争・核兵器について考え、日本各地の方言の特徴を実感したりすることが出



出雲大社

来ました。富士山は寝不足でのぼり、頂上では気分悪くしているのを一緒に登った台湾の廖靖文さんに助けてもらったりもしました。泊るところが無いなと思っているところをガイドブックに載っている無料で使えるプレハブ（ライダーハウス）で助かり、そこでもまた旅の人とめぐり合いました。



富士登山（留学生7人）

結論として、日本での旅は安全で、24時間営業のインターネットカフェのような安くて便利な「ホテル」があって泊るところに余り困らなくて済んだと思います。もちろん大変な事がありましたが、有意義な旅だったと思います。

日本留学

最後に、日本留学の動機でもあるように、アジア専門を目指している為、琉球大学のカリキュラム、それから留学生の多い環境に惹かれ琉球大学に入学するに至りました。ブラジルの日本人移民100周年祭にも参加したい気持ちもいっぱいですが、ここで一頑張りして、帰国後、100周年祭後の日系社会の為に貢献し、日本ーブラジル両国の架け橋だけでなく、アジアとブラジルの架け橋として働きたいです。

“沖縄の一期一会”

金城 コリン 完治 (カナダ)

初めに

初めて沖縄に来て、最初は全く日本語がしゃべれませんでした。もちろん日本や沖縄の伝統文化についても知りませんでした。色々な期待を抱いて日本の事を勉強できる機会が私をとて興奮させました。沖縄に来てやりたかった事は、まずもちろんの事日本語を一般会話ができるくらいにまで学ぶ事、沖縄の人達との交流、沖縄の家族と深く関ること、そして沖縄と日本の伝統や文化について深く体感する事でした。これら一年間の沖縄での生活について今から一つずつ話したいと思います。



琉球大学での生活

学校で授業が始まったとき、驚いた事はクラスにおいて先生が最初から日本語しかしゃべらなかった事です。私は日本語の知識が全くなかった為、先行きが不安でした。しかし、不思議な事に時間が過ぎるにつれて私の日本語は無意識のうちに少しずつ上達しました。私が学んだものは日本語だけではなく、たくさんの色々な国から来た留学生達と交流する事で日本だけではなく、世界中の色々な伝統や文化の事について知る事ができました。私も自分の国のカナダの事を留学生の皆に伝え、お互いがいい交流をする事ができました。それは私にとっていい経験でもあり、いい思い出です。

この一年間の間に、学校で色々な事に参加したり挑戦したりする機会がありました。例えば沖縄の観光地をまわったり、留学生祭りで友達を作り、何よりも、琉球大学のスピーチ大会に参加した事は私達の沖縄での一年間での集大成であり、私の日本語の成長を表現するチャンスでもある為一生懸命がんばりました。がんばった甲斐もあってスピーチ大会では優秀賞を得る事ができました。私が沖縄に来て日本語を学んだ一年間は無駄ではなかったのです。



沖縄の人達との交流

沖縄には“イチャリバチョーデー”という方言があります。これは、お互い初めて会った人同志が兄弟の様に深い絆で結ばれるという意味です。この言葉通り、私が出会った多くの沖縄の人は皆“イチャリバチョーデー”の気持ちで私に接してくれました。私は元々沖縄の人の様に人と接する時、“イチャリバチョーデー”の気持ちで接しています。でもカナダでは、もちろん皆いい人ですがやはり最初から心を開いてくれるような人は滅多にいません。沖縄に来て、沖縄の人と接したとき私は自分の沖縄のアイデンティティーに気がつきました。やはり私には沖縄の血が流れていたのです。



沖縄の家族～伝統文化～

私には沖縄にお父さんの家族、つまり私の親戚がいます。一生懸命日本語の勉強をして最近に従兄弟やおばさん、おじさん達とたくさん面白い話をする事ができるようになりました。

日本で、特に沖縄では家族の中で長男が一番多くの責任をまかされます。私の父も、長男ですが、私の父はカナダにいるため全ての責任を果たすことができません。そこで長男である私が父の代わりに長男としての役目をはたしました。例えばお盆や祖父の命日の日に親戚の皆は私に大事な役目を任せてくれました。親戚達が、このような大事な役目を私にやらせてくれたこと、それを通して沖縄の文化を学べたことをとても嬉しく思います。また、沖縄の親戚の皆は今年初めて私に会ったのに、前からずっと一緒に住んでた家族のように喜んで迎えてくれました。そのことを私は言葉で表せないほどうれしく思います。

しかし、せっかく、親戚達とこんなに話せるようになったのに、私はもうすぐカナダに帰らなければなりません。それはとても悲しいです。

けれど私には夢があります。今度は、私が沖縄の親戚達にカナダの文化や英語をおしえてあげたいです。そして、親戚達には私と同じ様に、カナダに興味を持って、カナダを好きになってもらいたいです。その夢を絶対に叶えて、恩返しをしたいです。祖父母や従兄弟、さらにはこれから生まれてくる彼らの子ども達がカナダにくる日を楽しみに待っています。



最後に

県費留学生に選ばれて、一年間沖縄で勉強をして、沖縄の家族の皆と深く関わり、沖縄の文化や伝統も学ぶ事ができました。この言葉は前に使ったかもしれませんが、でもこれ以外の言葉で私の感謝の気持ちは表現できません。この一年間は一人ではうまくいかなかったと思います。親戚の皆さん、家族として迎えてくれて本当にありがとうございます。皆は私の二つ目の故郷です。先生の皆さん、私達に日本語や、色々な事を教えてくれてありがとうございます。沖縄の皆さん、私達とあた

たかく接してくれてありがとうございます。そして沖縄県庁と沖縄県国際交流・人材育成財団の皆さん、多くの支援を本当にありがとうございました。カナダに帰ったら私の町の県人会にカナダに住む、私の様な沖縄の血を引く人達にもっと沖縄に興味をもって、私が体験したようなすばらしい一年間を分かり合えるような集まりができる様働きかけてみたいと思います。

最後に次の県費留学生に伝えたい事があります。一年間が過ぎるのとても早いです。時間を無駄にせず一日一日を大事に色んな経験をしてください。楽しんで沖縄での生活を過ごしてください。



～バイバイ沖縄♪～

一年間の美ら島物語

落合・クレグ・北斗(アメリカ)

2007年の4月、何年かぶりに私は沖縄の土を踏みました。ニュー・ジャージーでは大学と仕事に追われる生活の中、両親からこの県費留学生のプログラムのことを初めて聞きました。そして、何が起きているのか分からぬうちに書類に記入、カリフォルニアの北米沖縄県人会とインタビュー等とどんどん話が進んでいきました。電話が鳴り「留学が決まりました。すぐにも沖縄に行く準備をして下さい。」と言われ、慌てて飛行機に乗ってきました。久しぶりの沖縄の太陽と空気はあまりにも気持ち良く、全ての混乱や緊張を一時忘れてしまいました。

かと思ったら、安らぎの間も無く、授業に飛び入り状態でした。自分の母親が名護市勝山出身であることもあり、名桜大学に入学することにしました。何をどうしたらいいのか分からなかったのが財団と大学側の方々に任せ、時差ボケの顔で先生たちに挨拶に行きました。アメリカでは心理学を専攻としていたので、こちらでも是非似た科目に集中したかったのですが、専門用語がぎっしり詰まったレクチャーをいくつか聴き圧倒され、基礎から、日本事情・日本語を中心に勉強することになりました。



それでも、せつかく沖縄に勉強しに来ているので、できる限り自分の知識のみでも内容が解る科目も取りたいと思い、沖縄の自然と沖縄の天然記念物を受けました。いのちの揺りかごのマングローブや島々を渦巻く黒潮によって生まれてくる沖縄の海と、色々大変ながら学ぶことができました。授業にもある程度慣れて、後期には通訳技法と社会心理学も受けました。通訳では一瞬で英語と日本語の切り替えが必要とされ、自分の考えを素早く変える練習になってとても良かったです。社会心理学ではアメリカの心理学の授業で習ったことも多くありましたが、日本でだからこそ考えるべき心理的な面も習うことができ、文化と文化の違いを見比べるのに最適な授業かと思いました。

日本語・日本事情等では本に向かって学ぶのも良いが、経験するのが一番と思う先生も多くいて、野外授業に恵まれた一年を過ごすことができました。城巡りでは今帰仁城や首里城に行き、フク木並木通りや塩川見学もしました。日本事情の先生に進められ、かじまやあ人形劇団で人形劇を見る機会もありました。劇を披露してくれた桑江代表は84年に台湾へ行き、伝統的な人形劇ポテヒの人間国宝、鐘任壁氏に弟子入りし、日本で唯一、台湾伝統人形劇の免許を受けた方です。私達が劇団を訪れた時は「チョンダラー」という劇をやらしてもらいました。筋書きは旅芸人のチョンダラーが、母親を探している小太郎を弟子に、竜宮の神の怒りを解くために「ぬぶし玉」を探し歩く物語です。人形が宙を飛んだり、竜宮の神が舞うなどと、びっくりする技を次々に見せてくれました。劇は方言だったので、留学生の私達は細かい話についていくのに一苦勞でしたが、終わった後にも桑江様が丁寧に質問を答えたりしてくれたのでとても良かったです。



沖縄地域文化論との共同授業で海洋文化館にも行きました。琉球王朝時代に交易で海を駆けた色々の船などの模型や本物のサバニがたくさん並び、海上交通やかつお漁業の発展などと島の歴史を学ぶことができました。新聞記事や特攻艇と沖縄戦に関する展示も様々あって、戦争の悲惨さを教える場ともなっていました。



私は日本語をある程度喋れるとは言え、完璧ではなく、因みに訛りと方言が混ざった人と接するのが大変で少々ストレスも溜まったりしました。日系留学生でも見た目が完全な外国人は周りからの期待が少ないから羨ましいと甘えた考えをした時もありました。しかし、彼らは彼らなりに問題を抱え、頑張っていました。名桜の留学生にはネパール、中国、フィリピン、韓国、モンゴル、ブラジル、ベトナムなどと何十という国々から来た人がいて、母国語バリアを乗り越え、一生懸命交際と勉学に励んでいました。彼らが毎日を大切に思い、全身全霊を持って進もうとしているのを見て、自分の未熟さを思い知り、どんな難儀があろうとも成し遂げる勢いでこの一年頑張れました。その結果、たくさんの友達もでき、気がついたらくごく普通に沖縄での日常生活を送っていました。

大学の学生課も留学生交流を助長し、名桜大学留学生会を通し留学生の生活環境等の改善、地域との交流を促進し、効果的な国際交流をいくつも成していました。

沖縄県中国留学生協会と渡嘉敷村役場共同活動として渡嘉敷島で交流会を行いました。両国のパフォーマンスが披露され、特に中国武術と渡嘉敷青年会エイサーは今の今まで見たのとは格が違うと言っていいほど迫力がありました。沖縄と中国は古来から友好関係を保っています。沖縄は習慣、芸術、その他と様々な影響を中国から受けているからでこそ本土とは異なる独特の文化を持っている

のです。琉球空手や建築デザインなどとウチナンチューの日常生活の中に多く見られます。こういった歴史的ルーツを覚えておくため、そして更に発展させるために日中、国々、共にごんばっていきけるよう応援しています。幾度かの機会では沖縄のあちらこちらで多国籍の人、学生だけでなく子供からお年寄りまで集まり、ビーチにて交流会を行ったりもしました。



名護市世界料理フェアがあった時は参加しようと思ったのですが、料理といっても移民の国であるアメリカとして何を出していいやら困りました。結局、寮の友達が人手が必要だったので中華料理のマーゴ豆腐を手伝うことになりました。おかげで、最高においしいマーゴ豆腐の作り方を教わりました。

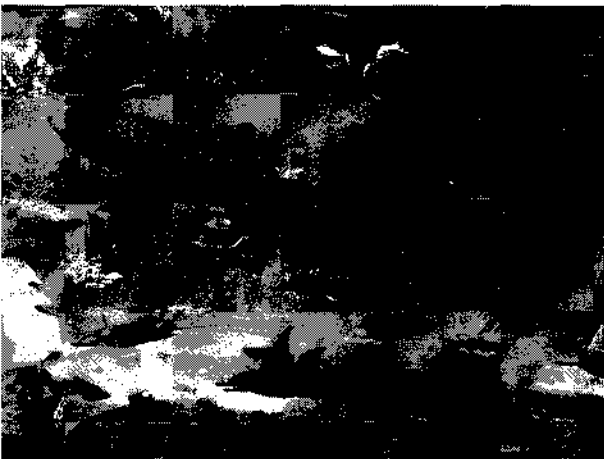


小学生や高校生との交流会もいくつかありました。生徒達とゲームをしたり自分の国の紹介をしたりし、生徒は私達のために踊ったり歌ってくれたりしました。高校生はともかく、小学生は元気をいくら発散しても減る様子がなく、遊んだ後はへとへとでした。



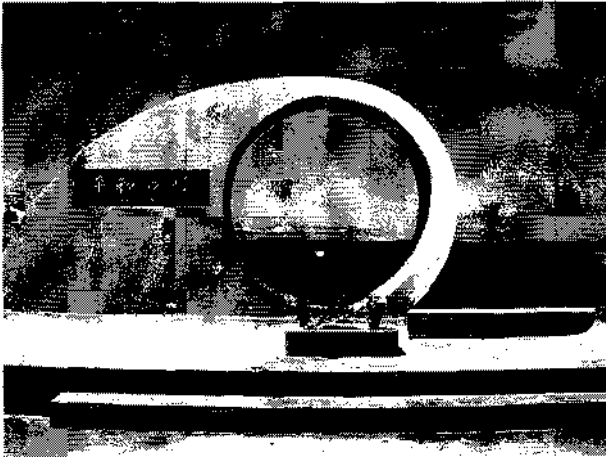
教科書検定意見撤回を求めた県民大会にも参加することができました。特に何かやったり、言ったりしたわけでもなく、ただ私にできる限りのウチナンチューの意志を支援する存在として行きました。

何度か美ら海水族館、沖縄の海を再現イメージした水族館、に行くチャンスもありました。私は世界一大きなアクリルパネルを備えた大水槽の「黒潮の海」が大好きです。印象的な水槽やきれいな魚を回りに、心地よい気分になります。しかし、地球の温暖化や海洋汚染が原因で自然がどんどん破壊されています。



現実、国際的に知られているアカウミガメも安心して卵を産めるところが少なくなりつつあります。海亀放流会の方々は手助けのため、一年間、141匹のアカウミガメを育て、エメラルド・ビーチで海に返しました。こういった活動も成果を見せ、カリフォルニア州やメキシコなどの近くで放流した海亀が元気に泳いでいる姿も見られているそうです。

友達や親戚のおかげで観光範囲もだいぶ増え、沖縄一周の旅もしました。留学生センターから出発し、ぶっ続けでありとあらゆる観光地・岬・市場等に行き、エメラルドビーチで夕焼けを見ながら思い出たっぷりの一泊二日の旅を終えました。



と、一年間の概要などやっていたらきりが無いものであり、今年できた良き経験そしてもつとも良き友、これから自分の宝として思い出に残したいです。県費留学生の修了式と同じ様に私の一番好きな方言、「イチャリパチョーデー」の大切さを強調し、報告を終わらせていただきます。

沖縄、そして沖縄の多くの人々、ありがとう。

想い

玉城 美奈(アメリカ)

「もう帰るんだあ…」

沖縄での留学生活が始まったのは2007年の4月からでした。初めて親元から離れて生活することになった私は不安と希望で胸がいっぱいでした。ハワイでは家族5人一緒に住んでいるため家の中はいつもにぎやかですが、ここでは一人です。

「まだ帰らないんだあ…」

こんなことを考える日々がやはり初めはありました。でもこの一年でたくさんの人との出会いやいろんな初めてを経験できて、とても充実した時間が過ごせたと心から思っています。

アパートでの一人暮らしを始めて間もない頃、勢力の強い台風4号が上陸しました。ハワイは自然災害がほとんど無い場所なので、強い風や雨で窓が壊れるのではないかと心配しました。不安でいっぱいだったので海の向こうにいる母親に電話して、どうしたらよいか相談したのを覚えています。ある時は大の苦手のゴキブリが出てきたので、ハワイが夜中にも関わらず、電話で母を起こして今すぐこっちに来てほしいと無茶なお願いをしたのを覚えています。いつも何事も母親に頼ってばかりでした。お腹が空いたらご飯が出来る、朝起きたら洋服が準備されてある、当たり前だと思っていたことがここでは自分でしないといけない、何もかも親に頼るのではなく、出来ることは自分ですることの大切さを沖縄での一人暮らしが教えてくれました。



沖縄県立芸術大学の琉球芸能専攻で一年間舞踊実技、組み踊り、着付け、髪結い、三線、太鼓、笛を勉強しました。芸大では様々の踊りの流派が集まっているため様々な踊り方が学べるのがとても新鮮でした。琉球芸能の組踊りを初体験しました。メロディーに乗せて方言で唱えるのはすごく難しく、またそれに合わせて演技をするなんて私には絶対無理だと思っていました。でも同級生や先輩、そ

して先生方にすごく助けられましたし、ローマ字の組踊りの台本が用意されてあったのには感激でした。組み踊りのほかに三線、太鼓、笛に初挑戦しました。正座しながら演奏することに最初は一分も耐えきれなくて一人だけそわそわしていましたが、最後の授業では何とかみんなと同じぐらい座ることが出来るようになったのが嬉しかったです。私に

とって芸大での贅沢は三線の音色を聴きながら教室の窓から首里城を眺めることでした。授業で疲れた時にこの眺めを見ると時間が止まったかのように心がとても癒されました。



大学以外でも踊りの道場に通いました。沖縄でしか経験できない琉球新報主催の琉球古典芸能コンクール舞踊新人部門に参加しました。家元の先生や先輩方、そして支えて下さったたくさんの方のおかげで無事合格しました。10人の審査員の前で一人踊ったときの緊張感や震えは今まで味わったことのないものでした。合格発表を見に行くのも初めての経験でしたので緊張しました。発表を見るのが怖かったので一緒に付き添ってくださった先生に私の名前と受験番号が書かれてあるか先に見てもらって、良い結果に二人で飛び上がったのを覚えています。あんなに人前で声を上げて喜んだのは初めてでした。コンクールはこれから優秀賞、最高賞と続きますので、私もずっと踊りを続けていきたいと思いました。



せっかく沖縄にいるので観光もしてきました。世界遺産に登録されてある首里城跡、

園比屋武御嶽石門、玉陵、識名園、今帰仁城跡、斎場御嶽に足を運び沖縄の歴史に触れてきました。おきなわワールドに行ったときに青い空、まぶしい太陽の下で勇気をもらえたので、私は巨大白蛇のアヤちゃんを首に巻いて記念撮影をしました。今思い返すとは虫類が大苦手な私にしては大胆な事をしました。それ以外にも上は辺戸から下は糸満まであっちこっち友達と行きました。透き通るような青い海と美味しい料理をたくさん堪能できて楽しかったのですが、こんな小さな島にこんなにも色んな歴史が詰まっていることに驚き勉強になりました。戦争の残酷さ悲惨さをここで学び、世界平和の大切さを改めて実感することができました。



留学生みんなで修了式に歌を披露し、エイサーを踊ったのがとても楽しかったです。エイサーは好きでよく見ることはしていましたが実際に踊ったことはなかったので今回は初めてでした。手や足が思うように動いてくれなくて大変でしたけどみんなで笑いながら助け合って一生懸命頑張ることが私はできたと思っています。素敵なお友達に

出会えて本当に良かったと思っています。留学生生活を充実できたのはたくさんの人の支えがあったからだと思えます。困ったときにいつも助けてくださった芸大の先生方や事務の方々、温かく迎えてくれた一年生の同級生、応援してくれた家族、ハワイの友達、ハワイ沖縄県人会に感謝しています。そして沖縄へ留学する機会を与えてくださっている沖縄県や財団の皆様感謝の気持ちでいっぱいです。ハワイに帰ってもここで学んだことを活かしていきたいと思えます。ここでの出会いは一生の宝です。

時間はあっという間に過ぎていきました。帰る前になって気持ちを聞かれるとちょっぴり淋しく、「もう帰るんだあ…」です。



染織から見つけた沖縄

浦崎 リア・クリスティーナ(アルゼンチン)

私が留学を決めた理由は、日本美術の勉強と染織の技術を深めるためです。なぜかというと、私のいるアルゼンチン国立美術大学で私は絵画を専攻していますが、日本美術については知識を得られなかったこと、染織の専門が大学にはなかったためです。そのために1週間のうち3時間ほど染織工房へ通っていましたが、南米風の技術だけで、日本の技術を教えてくれる人は見つかりませんでした。

このことに加えて、特に沖縄で勉強することになったもう一つの理由は私のルーツはこの島から始まり、長い間会っていない親戚に会えるからでした。

沖縄県立芸術大学で約1年間染織コースにいて、今まで本だけで見ていた技術を体験することができました。何か謎が解けるように、一つ一つの布地の作り方を知っていったからです。

染織の2年生とは筒や型紙の古典紅型、つづれ、よこ縞を学び、1年生とはカード織りを学びました。また大学院生はたて縞とよこ縞の作り方を手伝ってくれました。3年生とは集中講義を受けました。これらを通していつも同じ学年ではなく、いろんな学年、色んな歳の学生と交流ができ、たくさんの友達ができました。また、日本の若者がどんな考えを持っているのか、どんな生活を送っているのかがわかりました。



古典紅型 (筒)



古典紅型 (型紙)

そして、先生方の工房へ行って技術を更に深めることもできました。大宜味では芭蕉布の作り方を、城間榮順先生の工房では古典紅型を、ルバース宮平先生の工房では首里織りを、そして久米島では久米島紬を見学し、体験もできました。



芭蕉の皮むき



大城先生のアトリエ

それから、日本語教室では日本語を詳しく勉強しました。この言語の敬語の細かさとか、擬音語や

擬態語が詩的だなとも感じました。さらに、美術用語をもっと増やすために「芸術と風土」、「芸術と科学」、「染色化学」という理論科目を受けました。



留学生と担当の方々

夏休みには日本美術を学ぶため、東京・神奈川・千葉・静岡・愛知へ行き、いろんな展覧会を見ました。その中でも一番感動したのは上野・箱根・新宿・六本木・横浜の美術館です。銀座では歌舞伎も見ました。実際に作品を見て、本に印刷されているイメージとは少し違っていたり、もっと美しいと感ずることができました。

その他には首里公民館で三線のサークルに入り、以前はつまらない音楽だと思っていたのが、少しずつウチナーグチの歌詞の意味がわかっていくにつれて三線を楽しめて、今では民謡が好きになりました。



大工哲弘先生と島唄三線サークル

11月にはWFWP女子留学生弁論大会に参加し、審査員賞をいただきました。どのように平和が守れるか、どのように日本が見えるか、違う国々の人達それぞれが文化によって見方が違うので、一つのスピーチがとても興味深かったです。



WFWP 女子留学生弁論大会

こうしていろんな授業を受けて気付いたのは、ただ技術と知識を学ぶのではなく、技術を通して、出会った人を通して、言葉を通して沖縄の歴史と文化も学んでいたのです。たとえば、紅型を見ると、生地を通してどんな染料や顔料を使ったのか、色の組み合わせはどうか、また、描かれたモチーフからこの島の風土がわかります。そして、その風土を理解することによって、自分のアイデンティティ

も深く知ることができました。私の家族が生まれ育ったこの島に一年間住み、先祖がどのように生きてきたかわかった気がします。これからは、顔だけではなく、私そのものがうちなんちゅでもあると感じています。

この一年は、自分を磨くことができたすばらしい一年でした。

このチャンスをくださった在亜沖縄県人会連合会の方々、沖縄県庁の方々、沖縄県国際交流・人材育成財団の方々、また、美術に対する新しい考えや価値観を教えてくださいました沖縄県立芸術大学の方々、そして毎日お世話になった家族と友達、どうもありがとうございました！！

沖縄で見えた台湾

呉俐君(台湾)

最初、沖縄に来たときあまりカルチャーショックがないことがとても意外であった。私にとって沖縄は、まるで日本語が通じる台湾のようであった。

沖縄で出版されている雑誌『うるま』(2006年3月号)に掲載された「特集・華僑が出会った沖縄」によると、台湾と沖縄は言葉や歴史こそ違うものの、気候や生活習慣が似通っているため、互いにスムーズに溶け込める関係にあるという。そんな背景もあるのか、華僑が暮らす街として、沖縄は全国的に見ても特殊な傾向があるという。中でも、台湾出身華僑の存在が顕著である。その数は、2000名とも3000名とも言われており、経済的にも大きな活躍を見せている。沖縄人にとって台湾人華僑は、古くから交流を深めてきたよき隣人であり、意外なほど身近な存在なのである。

実は、私は今琉球大学の人文社会科学部研究科に所属し、「沖縄における台湾系華僑」について研究している。彼らは、台湾でどのような生活をしてきたか、なぜ出国を選択したか、また沖縄に来た後の生活はどのように変化しているかなどについて調査している。そのため、私は去年の四月から県内唯一かつ最大なエスニック・グループ「琉球華僑総会」でボランティアとして働いている。



琉球華僑総会

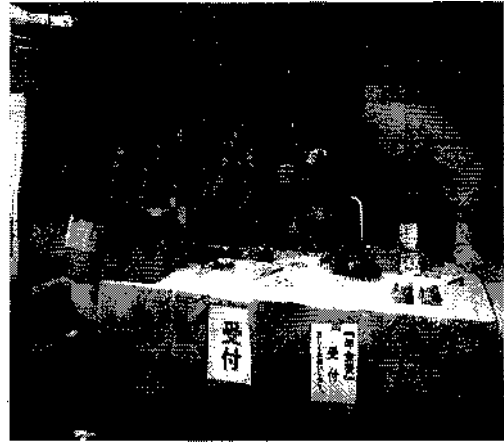


事務所風景

事務の仕事はもちろん、休みに入るとフィールドワークも絶えずによく行った。そして、年間行事も参加させていただき、非常に充実した一年であった。



台湾建国記念日パーティー



健行会

また、彼らのアイデンティティ問題について調査するため、「琉球華僑総会」に所属する中国語教室でも教師として教えている。今、私の生徒は、六人もいる。中国語を教えるといっても、よく彼らに日本語を直された。そこで、子供とコミュニケーションする能力も徐々に身に付けてきて何よりも嬉しいことである。



中国語教室風景



2008年新年会

以上は、私の一年間の主な活動であった。私は、研究を通して勉強はもちろん、色々な人との出会いもできた。学校という小さいコミュニティーを超え、私の生活の場は一気に倍増して私の人生の楽しみも倍増したような感じがした。

私は、この研究を行うことによって沖縄の人々の華僑に対する理解を高め、今後の交流発展の一助としていきたいと思う。沖縄と台湾社会に対する一つのささやかな貢献になれば幸いである。

沖縄の「親戚」

私は、沖縄県の海外子女ではなく、沖縄出身者との結婚もしていないのに、なぜここに「親戚」がいるのかという疑問があるだろう。

実は、祖父の小学校の先生は日本統治時代台湾に行かれた沖縄出身者の1人である。戦後、台湾に在留する日本人が引き上げるため、祖父の先生も沖縄に戻ってきた。その後、お互いの連絡も頻繁に続き、祖父は台湾から先生のところまで三回も訪ねた。しかし、10数年前先生がなくなり、連絡も一旦途絶えた。

沖縄に対する深い思いを持つ祖父の頼みで、2004年私が始めて沖縄で留学したとき、ただ一枚の住所を持って先生の自宅まで訪ねた。そこに、先生の遺族・奥さんと妹さんがいた。二人は、私を家族のように受け入れてくれて本当に不思議な感じがした。今でも、よく二人と連絡を取り続け、去年県費留学生の修了式も参加してくれた。私はすごく感動した。実の親戚がいないが、沖縄でできた愛してくれる「親戚」がいると本当に自慢ができる。

おばあちゃんへ：

今までいろいろありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



品川おばあちゃん

感謝：

最後に、この二年間財団の方々を始め、中琉文化経済協会、鈴木ゼミの皆さん、それと私の親友達、いろいろお世話になりました。ありがとうございました。沖縄での最後の一年、しっかり頑張っていきたいと思います。



鈴木ゼミの皆



沖縄での親友

人生の大切な一部分となった、沖縄での留学生活 廖 靖文 (台湾)



沖縄に来て、一年間が経ちました。一年前、県費留学生の試験に合格したことは、私の人生に大きな転機をくれました。去年大学を卒業して、半年ぐらいに会社に勤めていました。その時、もしかしてこれからの人生は会社と家の間を通うだけになってしまうか、と思っていました。でも、沖縄の県費留学生になって、再び学生生活に戻れることはうれしくてしょうがないです。沖縄で日本語を勉強して、自分の国と違う文化を味わって、そしていろいろな人と出会いました。まさにこれまでの私の小さな視界を開いたのです。



タイ祭り



留学生祭り

今回の留学で私はいろいろなイベントやサークル活動に参加させていただきました。初めてのイベントはタイの水祭りでした。沖縄でタイの祭りに参加できることは新鮮でした。それで、ここでは皆は一人一人が自分の国の代表で、自分の国の文化を他の人に紹介することは留学生の私たちの使命だということに気がきました。この責任は少し重く感じますが、こんな自分でも国に

少しでも力を貢献することができ、光栄だと思います。そして、その後の留学生祭りで、台湾の留学生たちで台湾料理を作りました。また、留学生スピーチ大会で台湾の先住民の踊りを披露しました。自分の国をもっと国際的に知られるように、私は力を尽くしたいと思います。



竹踊り（台湾—阿美族）

留学生以外に、日本人の学生と交流するため、二つのサークルに入りました。最初は茶道部で裏千家の点て方を勉強しました。茶道は一見に簡単なものですが、一つ一つの動きに意味が含まれて、とても深いものだと感じました。それから、フィルハーモニーにも参加させていただきました。私は初心者からビオラを習いました。一年間頑張った結果、先輩たちと一緒に演奏会に出演しました。先輩たちは、ビオラだけではなく、時々宿題を教えてくれたり、生活を助けてくれたり、皆のおかげで私のビオラと会話能力が上達していきました。私はフィルで大切な友だちができたのです。



琉球大学茶道部



琉球大学フィルハーモニー

私は日本語学科出身ですが、実際に日本語を使って生活するのは初めてなので、最初はすごく緊張していました。しかし、琉球大学での授業は楽しく勉強することができました。日本語の授業を通じて、日本語の能力もだんだん上昇してきたことを実感しました。授業でテレビニュースを見て、日本語の勉強にもなるし、社会の状況も理解できて、心得の深い授業でした。そして、

見学で普段あまり行くチャンスのないところへ行きました。平和祈念公園とガマで戦争のことを学び、泡盛の工場や市場で沖縄の人々の生活風習を体験し、たくさんの珍しい経験ができて、見学を計画してくれた先生たちと留学生センターの方々に、心から感謝しています。また、演劇発表とスピーチ大会などのイベントに参加して、日本語の勉強とクラスメートとの友情もよりよくなりました。先生たちは私たちの勉強のことだけではなく、普段の生活も指導してくれまして、私たちのこの一年間に欠かせない存在でした。



埋蔵文化財センター



OTVテレビ局

この一年で、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど、世界各地からの留学生と友達になり、お互いに助け合って、一緒に頑張ってきたことは国に帰っても忘れられないでしょう。私はこの一年間の思い出をぜったい一生の宝ものにします。

最後に、今回の貴重な留学を経験するチャンスを与えてくれた沖縄県、財団の方々と駐日経済文化代表処の方々に感謝の気持ちを申し上げたいと思います。いつもお世話になっておりまして、ありがとうございます。

沖縄での一年間の留学生活、必ず一生に役に立つものになると、私は信じています。これからも、もっともっと沖縄との関わりを深めるようにし、沖縄で学んだことを活かせるよう頑張っていきたいと思います。

一期一会の経験

曹智鵬（中国）

沖縄にくる前に、私は「始めまして、どうぞよろしくお願ひします」という会話しかいえませんでした。しかし、那覇空港に着いた時、日本語の代わりに、英語で「Can I use your pen?」と言って、ボールペンを借りて、通関表を書きました。本当に恥ずかしかったです。そんな日本語のレベルで、これからの生活をどう過ごせばいいのか、本当に不安でした。幸いなことに、沖縄で出会った人々が優しいし、熱心だし、色々手伝ってくれました。皆さんの御蔭で、私の日本語が段々上手になってきて、生活も楽しく過ごせるようになりました。さんしんとか、島人の宝とか、エイサーとか、沖縄の文化に、感動させられることがいっぱいあります。



普天間小学校



中城城

大学時代に、先生が福建省の琉球記念館の見学に連れて

行ってくださいました。その後、彼は「昔から、福建省は沖縄とずっと兄弟のような関係を持っているよ」と言っていました。現在、沖縄での一年間の留学生活がそろそろ終わります。先生の話をおぼえ出す度に、私は「全く、その通りだなあ」と実感しています。



那覇祭りの綱引き



首里城の祭りの出演者

沖縄そばとか、チンスコウとか、黒糖等、初めて食べた時、「何これ！故郷のと大体同じ味だ！」と気がつきました。友達のおかげで、首里城祭りの間、私は「冊封式」に出演しました。その経験を通じて、600余年前、琉球は中国との貿易が開始されており、中国から琉球へと移住した福建人も大勢だったと言われている。



平和祈念公園



斉場御嶽

沖縄は美しい海があります。ここに住んでいる人たちも海のように綺麗な心を持っています。斎場御嶽・首里城祭り・那覇祭りの綱引きなどの琉球国の伝統的な文化を通じて、沖縄人たちは文化財を大切にしているのがとても印象深かったです。



ぶくぶく茶の見学



餃子パーティー

光陰矢の如し、一年間の留学生活があっという間に経ちました。日本語能力試験二級に合格して、日本語スピーチ大会に入賞したことに比べて、最大の収穫は良い友達がいっぱいできたことです。友達と一緒に遊んだり、勉強したことが私にとっては一生絶対に忘れられません。「この一年間、色々な手伝いをくれた皆さん、色々お世話になりました、誠にありがとうございます。バイバイ、沖縄！」



国際龍舞サークル



成田山神社

本語スピーチ大会



スピーチ大会で入賞

平成19年度 沖縄県海外留学生修了報告書

発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒900-0034

沖縄県那覇市東町1-1 那覇東町会館7階

TEL : 098-941-6755

FAX : 098-941-6812